

最 近 の 研 究 の 動 向

1. 44年度試験研究の概要

当支場の44年度に実施した特別研究課題は「まつくいむしによるマツ類の枯損防止に関する研究」である。これは43年度より当支場の共同研究テーマとして、育林、保護両部の各研究室を参加させ実施している課題であるが、44年度は、六甲山系、京都市東山国有林、福井県三国地方の試験地において樹脂流出による異常木の経過を、また和歌山県日置川地区の試験地では、これに加えて根系の異常があらわれる時期条件などに重点をおいて調査した。

本場指示の特掲項目は、一般会計3、特別会計8、計11項目にあがるが、このうち「合理的短期育成林業技術の確立」と「混交林の経営」は共同研究として取り組み、特に後者においては、スギ、ヒノキ混交、ヒノキ、アカマツ混交林について各地で調査し検討を行なった。

なお、特掲項目のうち、造林地の拡大にともなう病虫害の発生が各地でみられることから、森林保護関係の研究に重点をおき、マツ類の穿孔性害虫、スギの耐病性品種の研究、採種園の害虫防除、野ねずみの発生実態調査、などを積極的にとりあげた。

なお、そのほか、森林の構造と成長の関係解析のため各地の固定試験地からの資料収集、ブナ帯の更新についての環境調査、また、林地の肥培体系確立のための栄養生理面からの林木の施肥、無施肥の成長過程の比較調査をおこなった。

経常研究については、本年度とくに新規項目はなかったが、育林関係では、管内に多いアカマツの施業改善に関する試験、近畿・中国地方の森林土壌分析、水源の理水、瀬戸内のはげ山の経済的治山工法の研究、管内民有林の経営実態分析など去年にひき続き調査研究を行なった。また、保護関係では苗畑の土壌線虫、アカマツ林のスス葉枯病などの病害、マツカレハ、カイガラムシなど関西地方に多発する森林昆虫の被害防止などをとりあげた。また、地域的特性のつよい研究として、さいきん開花現象が各地でおきている竹の研究をひきつづきおこなった。

2. 昭和44年度研究目標および研究項目表

研究目標	研 究 課 題			研 究 項 目	担 当 研 究 室
	大	中	小		
林業の高度生産	育林技術の高度化	適地判定技術の確立	森林生物の分類・生態および分布 主要造林樹種の成長と環境との関係	国有林野病虫獣害の診断 近畿・中国地方の森林土壌	樹 病 昆 虫 土 じ ょ う
		育種技術の確立	異郷土樹種の導入	外国樹種の導入	造 林
		種苗生産技術の高度化	林木種子の生産 苗畑施肥の改善 苗畑の被害防除	採種園における害虫防除 苗畑土壌肥料 苗畑病害防除	昆 虫 土 じ ょ う 樹 病
		更新および保育技術の確立	林地肥培ならびに改良 天然生林の更新および保育技術 特殊環境地帯の更新および保育技術	林地肥培 竹林に関する研究 ブナ帯の更新・環境区分 寡雨地帯の造林技術 〃	土 じ ょ う 造 林 土 じ ょ う 造 林
			人工造林および保育技術	アカマツ林の施業改善 合理的短期育成林業技術の確立 枝打技術の確立 林木の水耕試験	造 林 共 同 造 林 造 林
		森林の被害防除技術の高度化	森林の病虫鳥獣害防除技術の高度化	林地病害 スギ耐病性品種の育成 マツクイムシによるマツ類の枯損防止 マツ類穿孔性害虫防除 関西地方における森林昆虫の基礎的研究 特定地の野鼠発生消長調査 上木被覆による寒害防止	樹 病 樹 病 昆 虫 昆 虫 昆 虫 保 護 部 長 造 林
			森林の気象災害防止法		
		育林生産技術の体系化	保育形式の確立	アカマツ保育形式比較 混交林の経営	造 林
	森林資源の把握		森林の構造と成長	森林の構造と成長関係解析	経 営
国土保全	復旧治山技術の合理化		荒廢地の復旧工法	瀬戸内海地方はげ山の経済的治山工法	防 災

研究目標	研 究 課 題			研 究 項 目	担 当 研 究 室
	大	中	小		
国土保全	予防の確立 治山技術		予防治山工法	山地荒廃防止	防 災
	水資源の確保 技術の確立 涵養	水資源確保 工法の開発	利水工法	水源の理水	防 災
経営経済	林業経営	林業経営 の改善	林業経営の改善	民有林経営実態分析 山村経済機構	経 営 経 営